



ことし九月一二日開催の顕彰祭の様子。来年は、いよいよ塙先生没後一九六周年を迎えます。



顕彰祭の前に、正副会長が墓参を行いました。

本庄市塙保己一記念館にある資料紹介

塙保己一の道中日々記 (文：野口 泰宣)

保己一は当道座の用向きや群書類従の史料調査のため何度も関西方面に旅行しています。その時の旅行の様子を書き留めた日記が残されています。保己一は文化三年(一八〇六)に当道座で十老の職に就き、その挨拶のため上京しましたが、以後、六回ほど上京しています。この内、文化十四年(一八一七)に上京した時の日記「道中日々記」を紹介します。

保己一は十二月二十五日の朝、江戸を出発します。まず平川天満宮へ参拝して東海道の旅路につきます。年が変わって文化十五年正月一日は浜松宿に宿泊します。その後、岡崎・桑名・四日市宿、さらに鈴鹿山を越えて草津宿・大津宿を経て七日の昼頃に京都の旅宿四條烏丸に着きました。翌日には北野天満宮に参詣し、京都所司代へ挨拶を行いました。九日には職屋敷(総検校のいる屋敷)に挨拶に行き、以後二月九日まで京都・大坂方面で活動しました。帰りは二月十日に京都を出発して中山道を通って江戸に向かい、二十二日に本庄宿で昼飯、夜に鴻巣宿で宿泊して江戸に帰っています。一ヶ月半の日程でした。この日記には、最初に日付、天気、般若心経誦回数(毎日記しており、次いで何時出発してどこへ向かったか、いつ昼食とったか、いつ宿に帰ったかなど毎日記録しています。またその日、誰がいつ土産を以てやってきたか、自分が何を携えて誰を訪ねたかなども記しています。それでは京都に着いた時の記述を抜き出してみましょう。



七日天晴、心経二百三十巻
朝六ツ半時出立、大津宿伊勢屋二而中飯、
屋八ツ時京着、旅宿四條烏丸、着後、芝原
殿・岸並殿来、服部殿来、七ツ時過御職へ
参る、岐路岸並殿へ立寄

この日記にはいろいろな情報が含まれていますが、その一つが多くの人名が出てくることです。この日記は保己一の研究をする上でたいへん貴重な史料となっています。

顕彰会への加入・継続をお願いいたします。

総検校塙保己一先生遺徳顕彰会は、平成19年7月26日に市民参加による顕彰会として発足いたしました。顕彰会では、塙先生の遺徳と事績を広く顕彰し、その精神の普及を図ります。毎年、命日の9月12日に塙先生の遺影に菊の花を捧げる顕彰祭を開催するほか、説明会など各種啓発事業を行っています。

みなさまのご加入・会員継続をお待ちしております。

年会費 個人会員 一口 千円、賛助会員(団体) 一口 一万円
入会と会費納入の受付場所 本庄市役所4階生涯学習課と本庄市児玉文化会館(セルディ)、アスピアこだま内の児玉公民館で受け付けています。

※ 郵便振替でもお申込みいただけます(ご希望の際には、下記へご連絡ください)。



発行 総検校塙保己一先生遺徳顕彰会
事務局 本庄市教育委員会 生涯学習課 本庄市児玉文化会館(セルディ)内
所在地 〒367-0216 埼玉県本庄市児玉町金屋728-2
電話 0495-72-8851 FAX 0495-72-8854

※点訳ボランティアグループ「ほきの六点会」の皆様により会報誌の点字翻訳版を作成していただきました。ご希望の方は、事務局までご連絡ください。

ごあいさつ

寒冷の候、陽だまりの温かさがひときわうれしく感じられるこの頃ですが、会員のみなさまには、ご健勝にてご活躍のことと拝察いたします。

総検校塙保己一先生の命日にあたる9月12日には総検校塙保己一先生遺徳顕彰祭が開催され、地元の金屋小学校の児童をはじめ、多くの参加者がその遺徳をしのび、菊の花の献花をしていただきました。その後、立正大学非常勤講師の堺正一先生を迎えて「埼玉の三偉人から学ぶ」と題してご講演いただき、三偉人には「世のため、後のためという共通の考えがある」と話されていたのが印象的でした。

現在、遺徳顕彰会では、塙保己一先生の没後200年に向け、さらなる顕彰事業を推進するため、議論を重ねておりますのでご理解・ご協力のほどよろしくお願い申し上げます。また、障害がありながらも活躍をされている方や、企業・団体にお贈りする塙保己一賞の授賞式がここセルディで12月16日に開催されます。本年も4人の方の受賞が決まりました。みなさまには、ぜひご来場くださいますようお願い申し上げます。

総検校塙保己一先生遺徳顕彰会
会長 吉田 信 解

第11回塙保己一賞表彰式・記念コンサートを開催

埼玉県では郷土が生んだ偉人「塙保己一」のように、障害がありながらも不屈の努力を続け社会的に顕著な活躍をしている方や障害者を献身的に支援している方を表彰する塙保己一賞表彰式を下記のとおり開催します。【本庄市共催】入場無料です。

日時 平成29年12月16日(土)

午後1時～3時30分

(午後0時30分受付開始)

会場 セルディ ホール

表彰式後の記念公演では、シンガーソングライターで全盲の大嶋潤子氏による記念コンサートがあります。ぜひお出かけを。



大嶋 潤子氏

今年の受賞者の方々 (主な受賞理由)

大賞: 指田 忠司氏(64歳) 視覚障害

障害者職業総合センター特別研究員。日本盲人福祉委員会常務理事。平成20年から23年まで日本人として初めて世界盲人連合アジア太平洋地域協議会の会長を務めました。また、週刊点字新聞に海外の視覚障害者のコラムを連載するなど、国際理解と文化交流の推進に貢献している。

奨励賞: 澤村 祐司氏(36歳) 視覚障害

生田流箏・三絃演奏家。平成20年、第2回八橋検校日本音楽コンクールで八橋検校賞を受賞。邦楽古典作品のみの全国ツアーを毎年実施、朗読ミュージカルで作曲も行う。石巻市での被災地講演のほか、明治大学、母校の盲学校の非常勤講師等を務め、後進の指導育成にも力を入れている。

奨励賞: 木村 敬一氏(26歳) 視覚障害

パラリンピック競泳選手。2008年北京大会から3大会連続出場、銀3銅3メダル獲得。特別支援学校等で自らの体験や、バリアフリー社会の実現に向けた思いを伝える活動を行っている。また、東京オリンピック・パラリンピックのイベント等でアスリートの立場から、日本を盛り上げるための今後の活動を提言している。

貢献賞: NPO 法人視覚障がい者のための手で見える博物館

視覚障害者が、生物標本や歴史的遺物の模型などを、説明を聞きながら触察することができる博物館を運営。盲学校の教諭であった全盲の故桜井政太郎氏の自宅で運営開始。桜井氏の体調不良により閉館となるも、盲学校時代の同僚川又氏により、NPO 法人として移転開館。現在に至る。多数の見学者があり、毎年海外からの来館者もいる。(岩手県盛岡市)

の
様
子
昨
年
の
授
賞
式
及
び
コ
ン
サ
ー
ト



55×60×45

この瓦製の座像には、製瓦業の大島万之助と名が入っていて、金屋小学校の昭和二十九年度の学校日誌、十月十二日のページに、検校生像除幕式と記載されています。

この座像は、塙保己一先生の「不撓不屈の精神」を継承すべく、町村立では全国唯一の更生援護授産施設として、昭和三十四年に児玉身体障害者更生館として誕生しています。この施設の竣工に併せ、昭和三十三年に大島万之助氏が製作されています。更生館も官から民に移譲されて、平成二十三年には、「はなわの杜」と改称されています。



120×140×110

※写真の下の数字は、高さ・幅・奥行を表しています



67×90×55

この座像は、塙保己一先生の「不撓不屈の精神」を継承すべく、町村立では全国唯一の更生援護授産施設として、昭和三十四年に児玉身体障害者更生館として誕生しています。この施設の竣工に併せ、昭和三十三年に大島万之助氏が製作されています。更生館も官から民に移譲されて、平成二十三年には、「はなわの杜」と改称されています。

この像は、地場産業である瓦で塙保己一先生の座像を作ろうと、平成元年、児玉町の滝下鬼瓦店の製作で、児玉瓦商工業協同組合により寄贈され、十月十六日に除幕式が行われています。旧塙保己一記念館の入り口に置かれていましたが、記念館の移転に伴い新記念館内にあります。

金屋小学校

郷土の偉人「塙保己一先生」の顕彰活動が、先人達により脈々と培われ、今日に繋がっていますが、今回は、本庄市内にある塙保己一先生の、瓦製の座像二体について紹介させていただきます。

文・顕彰会事業委員 根岸 久

はなわの杜^{もり}

塙保己一記念館

平成二十七年七月に、リニューアルオープンした「塙保己一記念館」にも、瓦製の塙保己一先生の座像があります。

塙保己一記念館へ行ってみませんか

会報誌にご寄稿いただいている記念館の資料紹介も今回で一区切りとなりました。

記念館には、会報誌に載せた資料の他にもたくさんの展示物があります。顕彰会会員の皆様も記念館を再訪してみたいかかでしょうか。新しい発見があるかもしれません。右は新しいパンフレット「塙保己一記念館展示解説」です。

